

一般社団法人 日本写真測量学会 関西支部

『第 21 回 若手技術者・研究者による技術研究発表会』開催報告

日本写真測量学会関西支部では、2025 年 9 月 5 日（金）に『第 21 回 若手技術者・研究者による技術研究発表会』を開催しました。今年度も、大阪会場の大阪公立大学 I-site なんばと東京会場の東京農工大学府中キャンパスの 2 つの会場をリモートで接続する形式で開催しました。参加者は、大阪会場で 37 名、東京会場で 11 名でした。本発表会は、空間情報の生成・利用・応用のあらゆる分野に携わる 35 歳以下の技術者・研究者の発表技術向上と研究発展に資することを目的としており、さまざま応用分野でのユニークなテーマで 21 件（大阪会場から 15 件、東京会場から 6 件）の発表と活発な質疑応答が行われました。

プログラムは、①実務業務内容等の報告、新技術の利用、実務を通じてこれまで経験されてきたことや法規制度等に対する論説を対象とする「研究・技術報告」（セッション 2, 3）、②論文等の執筆に向けた今後の取りまとめについての発表及び討議する「研究・討議」（セッション 1, 4, 5）の 2 つのグループで構成されています。また、発表・質疑の時間は、1 件につき 20 分（発表：13 分、質疑応答：7 分）とし、活発な討論ができる点も本発表会の特徴です。

「研究・技術報告」では、防災、インフラ維持管理、環境分析、技術開発など、幅広い分野から 6 件の発表が行われました。水害特性の変化に応じた治水対策、IoT やクラウド GIS を活用したインフラ管理、森林環境解析やモバイル端末のリアルタイム自己位置補正への LiDAR データの活用など、実務と研究を結びつけた多様な成果が報告されました。

「研究・討議」セッションでは、リモートセンシングや画像解析、都市分析など、幅広い分野から 15 件の発表が行われました。UAV や車載カメラで撮影された画像から SfM/MVS 処理により生成された三次元点群の精度や再現性に関する研究、橋梁やインフラ施設の維持管理の高度化を目的とした画像解析技術に関する研究、さらに認知特性に着目した都市空間の分析、歴史的建造物保全への BIM の活用など、実践的課題へ取り組む多様な研究成果が報告されました。

質疑応答では、あえて厳しい質問を投げることもあり、発表者との活発な意見交換ができました。発表者の皆様の今後のご活躍を祈念いたします。

発表会の終了後、本支部役員の審査に基づいて、以下の方々に「最優秀研究発表賞」と「優秀研究発表賞」を授与しました。

本支部では、これからも本発表会の継続を予定しております。支部役員一同、より多くの若手技術者・研究者による発表をお待ち申し上げております。

最優秀研究発表賞

石黒 龍之介（京都大学大学院）

優秀研究発表賞

林 美帆（大阪公立大学工業高等専門学校）

佐藤 祐弥（アジア航測株式会社）



大阪会場の様子